

青谷かみじち遺跡

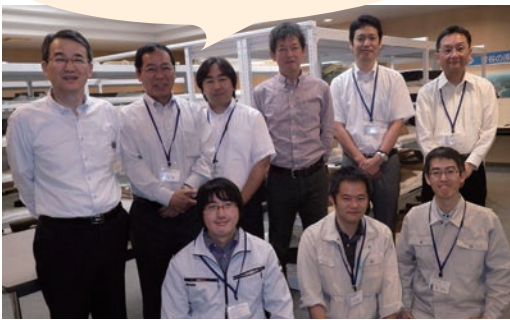
NEWS

Vol. **1**
2016 Summer

鳥取県埋蔵文化財センター
青谷調査室

〒 689-0952
鳥取市青谷町青谷 667
鳥取市青谷町総合支所 2F
電話 0857-85-5011

弥生時代の人たちが青谷上寺地遺跡に残したメッセージを、皆様のもとへお届けします！



こんにちは！青谷調査室です

私たちは国史跡青谷上寺地遺跡の発掘調査や出土品の研究、史跡の整備などの仕事をしています。

青谷上寺地遺跡に暮らしていた弥生人たちは、素晴らしい技術でさまざまな品物をつくり、日本海の荒波をのりこえ、全国各地の人びとと交易（こうえき）をしていました。

その技と勇氣。今、私たちは「弥生人の生きる力」を青谷上寺地遺跡に学び、これを未来に継承してここと、「温故知新」を大事にしたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

足をお運びください！

発掘調査は常時公開。担当職員が調査のようすを解説します。もしかしたら大発見に立ち会えるかもしれません。ぜひ

ればと思っています。

この「中心域」には、建物の壁板や柱など、たくさん発見されているので、「中心域」にどのような建物があったのか？という謎を、今回の発掘調査で解明できればと思っています。

発掘調査は常時公開。担当職員が調査のようすを解説します。もしかしたら大発見に立ち会えるかもしれません。ぜひ

青谷上寺地遺跡を未来へ！ どのような整備が望ましいのか

本格的な検討スタート！

いよいよ青谷上寺地遺跡を本格的に整備するための準備（整備計画と設計の検討）がはじまります。

「地下の弥生博物館」として全国に知られる青谷上寺地遺跡を、どのように整備、活用していくのか。これから「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会」を立ち上げ、考古学などの専門委員や地元公募委員の方々からアドバイスをもらいながら、青谷上寺地遺跡を楽しく活用するために必要な施設、整備の手法を検討していきます。そして、青谷地域の歴史や文化の魅力を探りながら、いろいろな情報を発信していきたいと考えています。



自分たちがつくった石包丁でイネやアワの収穫を楽しむ子どもたち（むきばんだジュニアファンクラブ）。

かみじち発掘通信



「中心域」の本格的な調査は 10 年ぶり。写真は平成 18 年の発掘調査で出土した木製品。

遺跡のど真ん中を発掘！
何が出土するのか・・・

八月から青谷上寺地遺跡の発掘調査をスタートします。

約三三ヘクタール（なんと！東京ドーム七個分くらい）の広さがある青谷上寺地遺跡の中には、私たちが「中心域」と呼ぶ場所があります。ここは周囲より少し小高くなっており、今から一九〇〇年前頃には東・南・西側が溝で区画されていました。また、当時、北側は海に面していたようです。

この「中心域」では過去の発掘調査でたくさん出土品が見つかっています。

どうやら弥生時代の人びとは、ここで骨や角を加工した道具や木製の容器をつくり、舟でものを運んでくる人たちと交易（こうえき）をしていたようです。しかし、ここにはどのような建物があったのかは、まだ、はっきりとわかっていません。周囲に掘られた溝からは、建物の壁板や柱などがたくさん発見されているので、「中心域」にどのような建物があったのか？という謎を、今回の発掘調査で解明できればと思っています。